

出演者

渡邊明日香 (第1 ヴァイオリン)

3歳よりヴァイオリンを始める。
兵庫県立西宮高等学校音楽科、京都市立芸術大学音楽学部を経て、同大学院音楽研究科修士課程を終了。大学院在学時に交換留学生としてフライブルク音楽大学に派遣され、一年間研鑽を積む。これまでに京都市交響楽団、守谷アンサンブルオーケストラなどとソリストとして共演。現在フリーランス奏者として演奏活動をしながら、あすかヴァイオリン教室を主宰し後進の指導にも力をいれている。

高木祐子 (第2ヴァイオリン)

上智大学卒業。5歳より桐朋学園子供のための音楽教室、その後、父親の転勤で渡米、A.シェーンフェルト氏に師事。現在はフリーランス通訳の傍ら、アマチュアとして活動。アンサンブルファン会員。

高橋楓 (ヴィオラ)

国立音楽大学付属中学・高等学校を経て愛知県立芸術大学卒業 第20回大阪国際音楽コンクール弦楽器部門Age-U入選、SAKURA. JAPAN. MUSIC. COMPETITION2020 ヴィオラ部門カテゴリーC第4位受賞。

三木隆二郎 (チェロ)

大森室内楽愛好会代表。愛知県立芸術大学病院アウトリーチプロジェクト・スーパーバイザー。大田区、中央区を中心に、普段事情があって生演奏に接することの難しい方のもとに音楽を届ける活動を20年以上続けている。

心あたたまるひびきのとき

於 東京労災病院 vol.1

2025年2月7日 (金)

15:00開演 16時終演

トリトン弦楽四重奏団

主催：東京労災病院

企画：大森室内楽愛好会

曲目

1. エルチョクロ/A. ビジョルド

アルゼンチン出身のタンゴの作曲家、ギタリストにより、作られた曲。

この曲はスペイン語で

「とうもろこし（の穂軸）」という

意味のアルゼンチンタンゴを

弦楽四重奏にアレンジした楽曲。

作曲者はとうもろこしがシチューの中で最も美味しい食材と述べる。タンゴというイベリア半島で発祥したリズムの舞曲がアルゼンチンに入ったことで強烈なリズムとなった。

3. リベルタンゴ/ピアソラ

ピアソラはアルゼンチン出身のタンゴ音楽作曲家でタンゴにクラシックやジャズの要素を融合させた。

リベルタンゴは自由なタンゴという意味でエレキギターやベースのような音使いや、即興を思わせる箇所がある。

また、従来とは異なる新しい方法でカウントする複雑な構造で「踊り」から解放された音楽を聴くためのタンゴ。

2. 弦楽四重奏曲第21番プロシャ王セット No. 1 全楽章/モーツァルト

プロイセン王ヴィルヘルム2世より、作曲を依頼され、モーツァルトが作った最後の3曲からなる弦楽四重奏曲のなかの一つ。モーツァルトならではの心地よさが特徴。

第一楽章 Allegretto

シンプルな主題で澄み切っている。息の長い「歌」がテーマになっている。

第二楽章 Andante

モーツァルトらしい明るさの中に落ち着きも見られる楽章。

第三楽章 Menuett

明るく快活な3拍子の楽章

第四楽章 Allegretto

本来はある主題が繰り返し、現れる Rond 形式の形をとっているがかなり変形されている。